



診断士登録のイロハ

～ ここから始めるルートプランニング ～

鈴木 雅子
中小企業診断士

令和5年度の診断士試験を受験された皆さん、お疲れさまでした。特に2次筆記試験を受けた方は、東の間の休息を味わっている頃かと思います。

試験に合格すると、次は診断士登録に向けた最後のステージ、実務補習・実務従事か待っています。受験ルートで診断士登録を目指すのであれば、誰もが通る道。

本特集では、経験者202名へのアンケート結果や体験談を交えながら、診断士登録に必要な実務要件とその道のりについてご紹介していきます。登録までのイメージづくりにお役立てください。

1 登録申請に必要な実務要件

中小企業診断士としての登録申請を行うためには、2次試験合格後3年以内に「実務補習を受講した日数」または「実務に従事した日数」の合計が15日以上あることが必要です。実務要件を満たすための方法は、主に以下の3とおり。

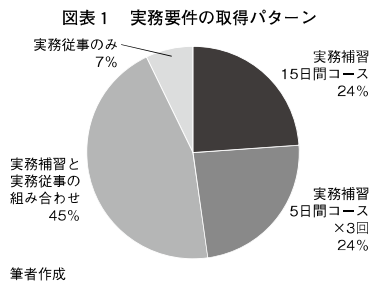
- ①実務補習を15日以上受講する
- ②実務従事に15日以上携わる
- ③実務補習と実務従事を組み合わせて15日以上携わる

どの方法が良いかは、それぞれの環境やスケジュール・費用感により異なりますので、ご自身にフィットする手段を選択しましょう。

2 実務補習

(1) コース概要

実務補習は、一般社団法人中小企業診断協会（以下、診断協会）が国の登録実務補習機関として提供しているカリキュラムで、5日間コースと15日間コースがあります。診断協会が実施する王道のカリキュラムのため、経験者アンケートでも9割以上の方が受講していました（図表1）。



5日間コースは例年、2月・7月・8月・9月に実施されますが、15日間コースは年1回、2月のみの開催となります。「短期集中で少しでも早く登録したい」と考える方は、15日間コースを選択されているようです。

実務補習は、受講者6名以内でチームを編成し、経験豊富な先生の指導のもと、5日間で1つの企業の総合診断を行います（図表2）。チーム全体での実施日は5日間となっていますが、事前準備や自主学習期間を含めると約2週間のカリキュラムとなるほか、5日間すべての日程を受講できないと修了は認められないため、計画的な受講が必要です。15日間コースは、5日間コースを3セット、約1ヵ月半かけて実施します。

図表2 5日間コース・スケジュール例

| 日程 | 内容 |
|---------|---|
| 初日4～5日前 | 指導員の先生よりメール連絡 診断先資料分析・業界調査 ヒアリング項目の検討 |
| 1日目 | チーム別打ち合わせ 経営者ヒアリング |
| 2日目 | ディスカッション 全体戦略・提言の方向性検討 |
| 自主学習期間 | 担当パート報告書作成 |
| 3日目 | 全体調整 経営診断報告書作成 |
| 4日目 | 最終調整 報告書作成、印刷・製本 |
| 5日目 | 診断先への報告会 診断報告書の提出 |

筆者作成

(2) 申し込み・受講料について

受講申込はインターネットによる受付のみとなります。近年は診断士試験の受験者数増加に伴い、実務補習の申し込みも激戦りとなっており、受付開始後、数分で定員に達してしまうケースも。受付開始と同時に申し込めるよう、万全の態勢で臨むことをおすすめします。

令和6年2月実施分の受付期間は1月9日(火)～1月16日(火)です。口述試験前となりますが、令和5年2月実施分は、2次筆記試験の合格発表翌日から「2次試験合格予定者」として申し込みが可能でした。今回も同様となる可能性が高いため、受講を検討される方は診断協会のホームページをまめにチェックしておきましょう。受講料は5日間コースが60,000円（税込）、15日間コースが178,600円（税込）です（令和5年9月時点）。

3 実務従事

実務従事とは、「中小企業者に対する経営の診断助言業務」または「経営の窓口相談業務」に従事することです。実務補習ほど知られていない印象ですが、たとえば、コンサルティング会社などに勤務されていて、勤務先からの派遣により診断を行う場合などが該当します。

民間企業が提供する実務従事サービスを利用するのも一つの方法です。平日夜や土日開催、オンライン中心など、地方在住の方や平日の休暇取得が難しい方でも、参加しやすいプログラムが多く提供されているのが嬉しいポイント。実務補習の日程が厳しい方は検討するのもよいでしょう。また、各道府県の診断協会でも、会員に実務従事の機会を提供している場合があります。

総合的な経営診断を行う実務補習に対し、実務従事では特定の分野に関する診断・提案を行うなど、従事方法・プログラムにより内容はさまざまであることが特徴です。また、登録申請の際には、所定の様式で実績証明書を提出する必要があります。業務の形式によって使用する証明書の様式が異なるため、しっかりと確認しておきましょう。

次章からは、実務補習・実務従事のリアルな世界をお届けします。